



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油・ガス関連（2月6日～14日）

1. 石油収入（2月7日付ケイハーン紙）

ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1390年（2011年3月21日～2012年3月19日）におけるイランの石油収入は1,100億米ドルに上り、NIOC（National Iranian Oil Company、イラン国営石油会社）創設以来、空前の額となった。これに伴い、投資額や生産性が向上していると、NIOCのガーレバーニー総裁が述べている。上流部門における投資に関しては、ヒジュラ太陽暦1389年（2010年3月21日～2011年3月20日）には167億米ドルであったのに対し、1390年には226億米ドルに達している。

2. 製油所の操業開始（2月12日付アブラーレ・エグテサーディー紙）

NIORDC（National Iranian Oil Refining & Distribution Company、国営石油精製販売会社）のゼイガミー総裁は、（バンダレ・アッバースで建設中の）Persian Gulf Star 製油所の第一フェーズが2013年9月に操業される予定であり、現在の国内ガソリン生産量（日量約5,200～5,400万リットル）に、1,200万リットルを加えることになると述べた。同製油所では、サウス・パールス・ガス田産のコンデンセートが使用される」と述べた。

3. OPEC 事務局長選挙（2月13日付ドンヤーイエ・エグテサーード紙）

次期 OPEC 事務局長の座をめぐり、サウジアラビアのマジード・モネーフ前 OPEC 代表が11日に選挙への出馬を辞退したことにより、イランに事務局長就任のチャンスが訪れた。同前代表は、サウジアラビアのアリー・ナーイミー石油大臣アドバイザーを務めるとともに、イランやイラクとの間で、次期事務局長の座を争っていた。

4. 石油・ガス開発分野におけるロシアとの相互協力（2月13日イーラーン紙）

イランとロシアは、イランにおける石油・ガス開発分野での相互協力について議論した。これに関し、ニークザード・ラフバル石油省報道官は、「イラン側の提案に関し、ロシアのノワク・エネルギー大臣は関心を示していた」と述べた。しかし、ラフバル報道官は、イラン国内のプロジェクト名やロシアの参加予定企業名について、詳細を明らかにしていない。

5. イランの石油生産量（2月14日付シャルグ紙）

エネルギー専門家のゴルバーン氏は、「OPEC の発表によると、イランの石油生産量は2013年1月の時点で日量269万1千バレルとなっており、昨年より100バレル減少している。ここで指摘したいのは、イランの石油セクターに対する制裁が国連によるものではなく米国によるものだという点である。よって、米国との対話次第で状況は変化する。仮に対話が不成功に終わり、関係悪化がホルムズ海峡まで波及すれば、1バレルあたり数十米ドル上昇するだろう」としている。